

古河市における後継者の残れる経営体の育成

古河市では、農家人口が平成7年 17年で76%になるなど減少を続けており、今後、産地を維持、発展させていくために、後継者の残れる経営体を育成していく必要があります。

そこで普及センターでは、古河市担い手育成総合支援協議会与連携して、古河市認定農業者連絡協議会を対象に「後継者が残れる経営体の育成」に向けた取り組みを進めています。

● 後継者が残れる経営体育成指針の作成 ●

後継者が残れる経営体育成のために、認定農業者の経営改善計画書や後継者クラブへのアンケート調査等を実施し、それをもとに所得目標の設定や経営改善モデルの案を作成し、それを育成指針としました。そしてその指針をもとに、経営相談会の実施や経営類型パターン毎の経営改善モデルの作成を進めています。



後継者が残れる経営体育成指針



うね内部分施肥技術の現地検討会

● 露地野菜部会への活動支援 ●

個別の経営改善を後押しするために、古河市認定農業者連絡協議会における各部会の活動を推進しています。露地野菜部会に対しては、「うね内部分施肥技術」の現地検討会や「古河市園芸フォーラム」を開催し、省力・低コスト化の取り組み支援や、生産だけでなく販売面からも経営改善を進めるよう意識啓発をしています。

● 普通作部会への活動支援 ●

普通作部会に対しては、現地で問題となっている大豆・麦等の連作障害回避を目的に、近年、転作作物として注目されている「飼料用米」を新たな輪作作物として導入を進めるため、実証ほの設置やそれらを活用した現地検討会の開催などの活動支援等を行っています。



飼料用米の栽培支援